事例No.	1309
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	北海道秩父別町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・移住定住 ・観光

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

秩父別町版外国人関係人口創出事業

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

●地域の概要

地域名：北海道秩父別町
人　　口：２，４０１人（令和２年１月１日現在）

秩父別町は、北海道の北西部に位置する町です。
気候は内陸型で夏と冬の寒暖差が大きく、冬期間の積雪は多いものの夏期は高温多湿で、基幹作物である水稲栽培に適しています。
総面積は47.18㎢であり、総面積の約7割が農用地となっています。



●解決したい地域課題

少子高齢化が進む小さな町で、近隣市町村を含めても人口減少が問題となっています。地域経済の衰退や担い手不足等、様々な問題が起こりつつあります。
そうした中で人口減少に歯止めをかけるため、子育て世代を対象とした補助事業や、環境整備を進め、平成29年にはわずか3名でありますが人口増になりました。こうした事業も自治体の体力を苦しめるものであり、近隣市町村からの人口の奪いとなるといかがなものかと…

●本事業に取り組むに至った背景

人口減少対策として、様々な事業を進めてきましたが、ある程度、環境整備は整ったのではないかと考えます。
次から次へと新たな事業を展開することにも限界があるため、現状を維持しつつ、新たな取り組みが必要と考えました。
ターゲットを絞らずに広く移住者を募りたい。また、いきなり移住してもらうことも難しいため、初めは秩父別町を知ってもらうこと。次に秩父別町に関心をもってもらうこと。そして秩父別町のファン（関係人口）になってもらうこと。関係人口の創出につながる事業を展開しようと考えました。
もちろん、関係人口よりも秩父別町に移住してもらえることを望みます。

2. 事業概要

●事業概要

〇訪日中の外国人（外国人留学生）関心ＵＰプロジェクト（関係案内人である式部氏の協力のもと、次の事業を実施）
1　田舎に行こう
　留学生等が秩父別町民へのインタビューを行い、その内容を秩父別町ＰＲに活用
2　オータムフェスト
　秩父別町緑のナポリタン推進協議会に協力いただき、留学生と一緒に地場産品（緑のナポリタン）のPR
3　冬のアクティビティづくり
　秩父別町内で誰もが取り組めるアクティビティづくりをすすめるため、留学生にモニター依頼
〇訪日前後の外国人関心ＵＰプロジェクト
1　タイ出身の臨時職員が主体となり、秩父別町の魅力を発信します。
2　北日本調査社と連携し、台湾旅行会社に対する秩父別町のプロモーション事業を実施します。

●地域の理想の姿

人口減少は避けることができない問題であります。たとえ、人口が減ろうが今、住んでいる秩父別町民が「このまちに住んでよかった。」と思えるようなまちづくりを進めていきたい。このためには、地域の魅力（祭りなどのイベント継続や、伝統文化の継承等）が失われることのないよう、関係人口を協力による維持が大切となります。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

秩父別町を知ってもらうことを一番に考え、関係人口（秩父別町のファン）になってもらうまでを考える。
また、外国人というテーマでモデル事業に採択されたところでありますが、日本人・外国人にこだわったものではなく、多くの方々に「秩父別町を知ってほしい。」という考えで進めていきたい。

●本年度の目標

数値的な目標値を掲げることが難しいため、参加者を募集する事業では、参加人数により目標の度合いを判断したい。



3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

	組織・団体名等	役割
1	秩父別町企画課	事業全体の把握、整理・管理
2	外国人臨時職員（タイ出身　ＳＮＳブロガー）	ＳＮＳを活用した情報発信 外国人のみならず、秩父別町民に対するタイ文化周知活動のほか、北海道が実施する事業にも貢献
3	多文化コーディネーター【関係案内人】	留学生等を対象にした事業におけるパイプ役 イベントに関する企画、立案、実施
4	緑のナポリタン推進協議会 （秩父別町都市農村共生・対流促進協議会）	外国人留学生と秩父別町民が交流を深めながら、地場産品（緑のナポリタン）のイベント出店を実施
5	町民ボランティア	留学生等が事業で秩父別町を訪れた際の留学生サポート役
6	北日本調査社	台湾に対する秩父別町のプロモーションの実施

●スケジュール

実施事項	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 田舎へ行こう（多言語ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ作成）				町民ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ及び準備等															町民ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ及び準備等			ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ作成											
2 ｵｰﾀﾑﾌｪｽﾄ（地場産品のPRｲﾍﾞﾝﾄにおける留学生等との交流）				出店準備											出店																		
3 味噌合宿・冬のｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ（冬の体験ﾒﾆｭｰ）																						準備			体験								
4 外国人関心UP事業（秩父別町の魅力発信）（台湾旅行会社へのﾌﾟﾛﾓｰｼｮ	秩父別町の魅力発信及び各種事業の実施（～1月） 台湾旅行会社へのプロモーション準備及び実施（8～12月）																																
5 成果分析																									成果分析・報告書作成								

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

人口減対策としては、国籍にこだわる必要はありませんが、元秩父別町地域おこし協力隊であった式部氏（関係案内人）とのつながりを活かす上で、ターゲット層は、外国人留学生を中心に考えました。また、留学生同士は、つながりも強く、一個人の発信が広く、多くの方々（留学生含む）につながると考えます。

また、訪日前後の外国人のターゲット層は、海外への旅行を計画するような年齢層対象に、実際に秩父別町に来てくれる。そういった方をターゲットに考えました。

●参加者募集のターゲットの設定経緯

式部氏は、以前、留学生にもっと地方のことや、地方の人とも関わりをもってもらえる事業を行いたいと考えていたそうです。ただ、そうした事業を行うにも自分自身が地方のことを知らなければいけないと考え、秩父別町地域おこし協力隊に応募しました。

地域おこし協力隊として秩父別町で活動した間に町民とのつながりもでき、考えていた事業が実施できそうだと思うのと同時に、秩父別町が考える事業とも一致することができたため、事業実施に向け、地域おこし協力隊を卒業し、北大非常勤講師となり、各種事業に取り組んでいます。

●ターゲットへの広報・アプローチ

学生を対象にした事業は、式部氏の講義を利用して参加者を募集しました。また、講義には秩父別町企画課職員も参加し、事業説明や秩父別町のＰＲも行いました。

こうしたことから、予定を大きく上回る応募があり、参加人数を増やして事業を実施することになりました。



5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容



＜田舎に行こう＞
1回目 6月（学生23名）
2回目12月（学生24名）
町民にインタビューを行い、その成果物を秩父別町のPRに役立てる。
グループによって、時間を余したり、話が盛り上がり時間が足りなかったり様々でした。
訪問の際に農作業の手伝いや、トラクターの運転をさせてもらったり、中には犬ぞり体験をしたグループもありました。

＜オータムフェスト＞　9月（留学生等3名）
緑のナポリタン推進協議会と外国人留学生による「オータムフェスト」への共同出店。
出店4日間のうち、3日に留学生の協力をいただく予定でしたが、応募が少なく、2日間で3名の協力にとなりました。
参加いただいた学生さんは、集客からレジ、ナポリタンの盛り付け等、緑のナポリタンのＰＲに大きく貢献いただきました。





＜冬のアクティビティづくり＞　1月（留学生6名）
誰もが取り組めるアクティビティの調査に協力いただいた。
そば打ち体験、味噌づくり、鹿角を使ったアクセサリーづくりを行いました。
参加した留学生の皆さんは、秩父別町に満足して帰って行かれました。

6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

・田舎に行こう１回目：２３人【予定：１０人】
・田舎に行こう２回目：２４人【予定：１０人】
※「田舎に…」には多くの学生より応募がありました。
一人でも多くの方に秩父別町を知ってもらいたいと考え、交通手段等の見直し等により対応しました。

・オータムフェスト：３人【予定：６人（２名×３日）】
※募集時期が夏休み時期であったことから、応募者が少なかった。

・冬のアクティビティづくり：６人【予定：９名】
※田舎に行こうで増やした分の調整もあり、予定よりも少ない人数で実施しました。

●関係人口の地域との関わり方

事業参加者のアンケート結果の一部
・「獅子舞」活動に参加してみたい。
・観光客が増える夏場に人手不足となるようなので、ボランティアとして協力したい。
・イベント等があれば、参加してみたい。
・町で生活していると気づかないこともある。外からの目線で魅力などアイディアを提供したい。
・応援したくなった。
・秩父別町に限らず、色々な地域に関わっていきたい。

回答の一部ではありますが、ファンになってもらえたかなと思える回答を多数いただきました。
もちろん、中には「特になし」や「無回答」等の厳しい回答をされた方もいましたが…

●その他の成果

・ 式部氏が行った別事業「ちっぷ１００人サミット「ご近所さんは外国人？」
今後、外国人移住者が増えてきたときに起こる様々な問題点を今の段階で考え、みんなで情報の共有。高校生から高齢者まで、様々な年齢、職種の方々が参加
・ 外国人臨時職員のブログ効果 … タイ人観光客の増
タイ人グループに秩父別町で５日間滞在してもらう事業（9、10、3月予定）
タイの文化を町民に伝えるため、毎月「タイ文化教室」を開催



7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

〇訪日中の外国人関心ＵＰプロジェクト【田舎に行こう、オータムフェスト、冬のアクティビティづくり】
　学生を対象にした事業であり、希望者も多く、予定人数を増やして対応しました。
　当初はJRを利用した移動を想定していたが、人数が２０人を超えたことにより、宿泊施設の送迎バスを利用することで、経費の圧縮ができ、その分を学生の宿泊料に充て、事業実施することができました。

〇訪日前後の外国人関心ＵＰプロジェクト【外国人臨時職員の魅力発信、台湾旅行会社に対するプロモーション】
　目標の設定が難しいことから、数値目標を含め設定ができませんでした。少しでも多くの方が秩父別町に来てくれること期待する。

●今後の課題と対応方針

　今回の事業は実施したから、すぐに効果が出るものではありません。
　継続することが大切であり、継続することによって、より効果が得られるものと考えます。
　このほか、関係人口になってくれた方が発信する情報を見て、秩父別町に興味を持った方（関係人口になる可能性のある方）に対する事業（情報発信、体験プログラム等）も必要と考えます。
　もちろん、関係人口となってくれた方に対する情報発信や秩父別町に来てくれたときにどんな応対ができるのか。そうした点も大切ですが…





8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

「田舎に行こう」に参加してくれた学生が、後日、秩父別町で開催したお祭りに遊びに来てくれました。
今年度、実施した事業は秩父別町を知ってもらい、ファンになってもらうまでを想定した事業で、関係人口になってもらう最初のステップでしかありません。
来年度以降の関わりとして、現時点では具体的な良き案を記載することができませんが、秩父別町のファン（関係人口）になりたいと考えてくれる方、ファンになってくれた方に対して、秩父別町の情報を届けることができるような体制が必要です。
また、秩父別町のファンになりたい方が、「どうしたらよいのかわからない」となることがないようにしなければなりません。



●「関係人口」施策の展望

「田舎に行こう」において、インタビューをされる側であった町民の方が学生に対して、「違う季節のときに秩父別町の違う面も見てほしい。」、「収穫時期に取れたての野菜を食べてほしい。」等の言葉をかけていました。また、事務局に対しても、「若い方と話す機会があまりないので、貴重な体験ができた。」、「話しきれなかったこともあるため、次回も声をかけてほしい。」等、ありがたい意見をいただきました。学生にターゲットを絞った事業ではありましたが、協力いただいた町民にとっても、まちの魅力の再認識、自分自身のふりかえり等につながったのではないかと感じました。
関係人口創出・拡大のためには、魅力あるまちである必要があります。外見（施設等）の整備はお金をかけることで、ある程度の整備はできますが、内面（住民）の整備はお金だけではできません。住民が活き活きと生活し、誇りを持った町であり続けることが、秩父別町のファン獲得につながるものと考えます。
関係人口の創出・拡大の各種事業を行いつつ、住民と行政が一体となり魅力あるまちづくりを進めていきたいと思います。